

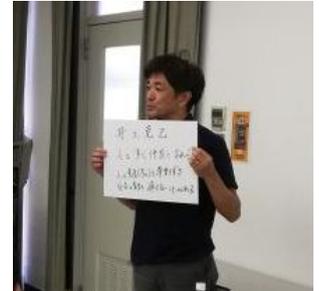
## 研修会参加

## 2019年度 兵庫県審判インストラクタートレーニングセンター 参加報告

----- 県イントレ参加レポート サッカー3級審判インストラクター：井上 克己 -----

兵庫県下で行われました兵庫県審判指導者トレセン（以下、県イントレ）にインストラクターとして参加しました。この事業は2019年度事業として審判指導者のスキルアップを目的として、兵庫県内で実施されたものです。

- 背景：地域・都道府県におけるサッカーレベルの向上の為、指導者のスキルアップが必要
- 目的：審判指導者のスキルアップ、指導方法の習得
- 内容：チュータリング、アナリシス  
 [アナリシス]：最新の競技規則の解釈と適用の確認、事象・状況の分析力向上、試合全体（ゲームコントロールやマネジメント）の分析力向上、戦術の理解やゲームの読みについて学ぶ  
 [チュータリング]：理解の定着と具現化、国際基準の導入・実践、日本人気質の枠を外に広げる、教える → 「考えさせる・伝える」へ
- 実施期間：2019年3月～2019年12月（8月を除く）計8回



回	開催日	会場	研修内容
第1回	3月24日(日)	三木防災公園	研修の目的と狙いを説明 チュータリング
第2回	5月19日(日)	ダイセル播磨光都サッカー場	チュータリング
第3回	6月1日(土)～2日(日)	アスパ五色	宿泊研修:チュータリング(プレゼンテーション)
第4回	7月13日(土)	伊丹中央公民館	アナリシス(映像研修)
第5回	9月8日(日)	サンライフ明石	アナリシス(映像研修)
第6回	10月13日(日)	船坂多目的グラウンド	アナリシス(試合観戦)
		西宮マリナパークシティ海のまち コミュニティルーム	アナリシス (観戦後試合分析→プレゼンテーション)
第7回	11月10日(日)	県協会 大会議室	チュータリング(プレゼンテーション)
第8回	12月8(土)～9日(日)	アスパ五色	宿泊研修:スキルアップ研修会を活用しての アナリシス、チュータリング実践

兵庫県下の3級インストラクター6名が選出され、年間計8回実施。第1回から第3回はチュータリング理論から実践まで、第4回・5回は、様々な映像を見ながら、コンシダレーションポイント※を出し、レフェリーに伝えるべきポイントを徹底的に絞り込む作業を。終盤の第7回・8回では、過去の研修を総括した内容で取り組みました。



※…判定する際に考慮するまたは考慮すべきポイント（研修内では一覧表から抽出）



## [チュータリングの実践]

一方的に話すのではなく、その場面(ハンドリング)を再現することにより、判断すべき項目(腕の位置、当たった部位と順番等)や適切なポジショニングがどこであったかを審判員と一緒に検証し、競技規則の理解と判定精度を上げる内容を実践しました。

第4回、5回のアナリシスは映像を見ながら、徹底的に試合分析を行いました。

起こった事象に対し、コンシダレーションポイントを各自で抽出し、イントレメンバー同士ですり合わせ、伝えなければならない最重要ポイントを絞り込んでの発表となりました。研修の場でしたので映像の見直しが出来ましたが、ここまで時間を費やすことが出来ない本番の試合(実試合後の振り返り)で、このフローが実践出来るか非常に不安になりました。

これが実際に経験できたのが、第6回の場合でした。西宮市の社会人リーグの場をお借りして実際の試合を観戦し、審判団としての良さや課題を抽出。レフェリーには何を感じて、理解してもらい持ち帰ってもらうか?インストラクター自身には、試合を的確に分析し、論理的に話をする事が要求されます。

そして、レフェリー自身に如何に答えを出して貰うかが重要となってきます。ポスターセッション、試合映像を各自PCにて動画を編集し提出、判定結果やその理由、コンシダレーションポイントの選択などを模造紙に書いて発表するなど、デジタルとアナログが融合した内容でした。

動画による場面の振り返りと解説、ポスターを使って説明をすることで指導する際に役立つツールやその特性、方法・手段を知り得ることができた。



公式戦やトレーニングマッチでのパフォーマンスに対して、これまで学習(チュータリング・アナリシス)してきた「指導力」をここで発揮。

チュータリングは、過去の研修会を通じ、言葉そのものは聞いたことがある程度で、実践したことはありませんでした。研修では、チューターとは?なぜ審判員にチューターが必要か?、記憶力、理解度の差 - 自分で気づき、解決方法を見出す学び、ワークショップの実例、質問技術、正しい競技規則の理解の受容性、トピックスの絞り込み、Recap(振り返り)という流れで行われました。

私の課題はハンドリングでした。事前課題で提供された映像を元にハンドリングとなった根拠を、いかに第三者(レフェリー)へ理解してもらうか?です。つつい自分の立場だけで話を進めがちで、聞き役に徹することが出来ませんでした。



後方から無謀にボールへチャレンジしているよね。



指導するポイントを抽出し、その場面を切り取る(動画編集)作業も研修の一環として行なわれた。



研修最後の第8回は淡路島アスパ五色での宿泊研修でした。

レフェリーチームに1名のインストラクターを加え、2日間同じチームで活動。レフェリー研修とインストラクター研修を同じチームで行う事は、新しい試みです。試合前に担当レフェリーへ「今、迷っている事はないか?」と会話を通じてコミュニケーションを取り、把握しようと努めました。近年、ユース審判も増えてきており、声のかけ方など、臨機応変に対応していくスキルも必要になってきていると感じました。



「⑦全員参加で各班 1 クリップ抽出→振り返る時間」の 1 シーン

今回の宿泊研修における時間枠の特徴を活かし…

- ①試合を振り返るの為の時間
- ②レポートをまとめる時間
- ③ビデオ編集する時間
- ④審判員からの指摘事項の抽出とその資料の提出
- ⑤④を貰ってから分析する時間
- ⑥チーム内でビデオ分析と最終振り返りをする時間
- ⑦全員参加で各班 1 クリップ抽出→振り返る時間
- ⑧役員全体での反省会の実施

上記の項目に対して時間を最大限有効利用できたことで、より中身の濃い内容となりました。

全8回の研修を通じ、いかに自分自身の経験のみの考えに偏っていたかを痛感しました。事象を客観的に捉え、論理的に話を組み立て、人に伝わる（理解してもらう）事の難しさを感じました。また、改めて競技規則の理解の重要性も認識しました。今回の研修内容踏まえ、日々研鑽し、インストラクターとしてスキルアップに努めて行きたいと思えます。

県イントレ開催にあたり、関西サッカー協会インストラクターの皆様、兵庫県サッカー協会関係者の皆様、また各都市協会審判委員長の皆様には、多大なるお時間、ご調整いただき、誠にありがとうございました。特に地域密着（7都市協会協力の元で開催）と活性化の観点から都市協会と指導者部との連携がうまくマッチし、我々受講者にとっても受講し易い環境にあったと感じました。



山本委員長から県イントレメンバーへ初日を終え、より適切な指導方法と我々のへ期待・役割をご教授いただきました。

インストラクターとしてもまだまだ未熟ではありますが、次のステージへとステップアップしていく為に、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。  
誠にありがとうございました。



競技規則を何度も開き、読み返す。『～ 学ばざる者 教えるべからず ～』  
基本を決して忘れてはいけません。